

岡山県地域包括ケアシステム学会

一般演題

- 1) 発表形式 ②ポスター、
- 2) カテゴリ 7. 在宅での看取り
- 3) 演題名 ALS 患者・家族の意思決定と在宅での看取り～他職種で支える看取り～
- 4) 筆頭演者 杉谷智子 共同演者 佐藤美子
- 5) 筆頭演者の職種名 看護師
- 6) 所属施設名 訪問看護ステーションママック総社
- 7) 抄録

(はじめに) 今回、在宅で療養されていた ALS 患者へ看護師・PT・OT・保健師・訪問診療・ケアマネージャー・在宅薬剤師の関わりを持ちながら、本人・家族の意思決定を尊重しながら在宅で看取ることができた。このケースを振り返り看護師の役割や他職種との連携の大切さを学んだので報告する。

(事例・経過) A 氏は 60 才代女性。ALS、球麻痺で食事摂取困難にて胃瘻造設術後訪問看護介入となった。うつ病や強迫観念症の既往あり、病気や症状の進行に対する不安を強く持たれていた。病気の受け入れにも葛藤強くもたれていたが、専門的な保健師や在宅医師へ繋ぐことで意思決定され、その後在宅にてサービスを受けながら家族親戚に見守られ看取られた。

(考察) ALS は、筋萎縮と筋力低下が特徴的な疾患であり、徐々に全身に拡がり、病気の進行により、コミュニケーションも阻害され、患者の苦痛は計り知れない。病状の進行に伴い、本人家族の葛藤や悩みも出現し、意思決定をもとに様々な援助対応が必要となってくる。意思決定を尊重しながら心身の状態や病気の進行を理解し必要な援助やサービスを繋ぎ、連携していくことが看護師の大切な役割となる。